

=

2025 年度事業報告書 附属明細書

附属明細書 1 会員一覧

附属明細書 2 主催セミナーに関する事項

附属明細書 3 留学生会館入居状況

会員一覧

2026年3月31日現在

正協力会員名称	
1	東京農工大学
2	一橋大学
3	東京都立大学
4	青山学院大学
5	桜美林大学
6	大妻女子大学
7	慶應義塾大学
8	国際基督教大学
9	駒澤大学
10	実践女子大学
11	上智大学
12	創価大学
13	中央大学
14	帝京大学
15	東京工科大学
16	日本女子大学
17	法政大学
18	明星大学
19	立教大学
20	早稲田大学
21	高千穂大学

準協力会員名称	
1	東京外国語大学
2	東京学芸大学
3	電気通信大学
4	工学院大学

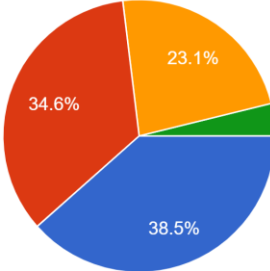
地方協力会員名称	
1	大阪産業大学
2	教育テック大学院大学

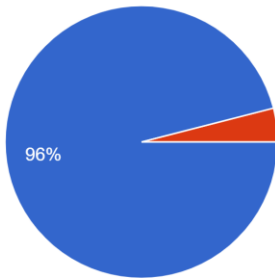
賛助会員名称	
1	(株)幼体連スポーツクラブ
2	(株)スリーボンド
3	安藤物産(株)
4	多摩信用金庫
5	大成建設(株)
6	相場建設(株)
7	ハウスコム(株)
8	一般社団法人 DOCOMOMO Japan
9	一般社団法人参加型社会学会
10	(株)ビクセン
11	(有)パス心理教育研究所

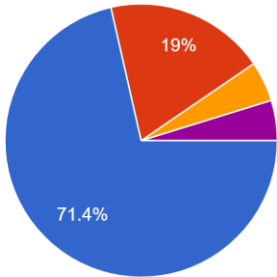
2025 年度事業報告 附属明細書2 主催セミナーに関する事項

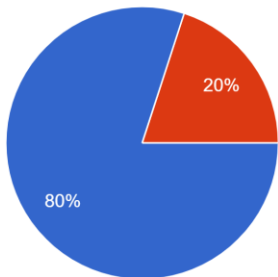
事業名	第15回大学教員研修セミナー(オンデマンド講義+オンラインセミナー+対面セミナー) ★2025 年度より「新任教員研修セミナー」から名称変更
期 日	オンラインセミナー2025 年 8 月 5 日(火)、対面セミナー8 月 18 日(月)～19 日(火)1 泊 2 日
主 題	アクティブ・ラーニングと生成 AI, 変貌する大学像
対 象	教職員
趣 旨	2011 年に始まった新任教員研修セミナーは、「新任教員ではないが参加したい」という声に応え、15 回目を迎える今回から、大学教員研修セミナーとして再出発することになりました。新任教員のみならず、中堅やベテラン教員の参加を広く歓迎し、世代を超えたより深い学びの場を提供することを目指しています。 こうした移行を受けて、今回は、相互に関連しながらもレイヤーが異なる 2 つのテーマを設定しました。 テーマの一つは、前回に引き続き、コロナ禍以降の高等教育におけるアクティブ・ラーニングと生成 AI の教育的活用についての議論を掘り下げます。アクティブ・ラーニングは大学教育でその重要性が認識され、一定の普及を見せていますが、質的深化は今後の課題です。対面とデジタルを組み合わせた新しいアクティブ・ラーニングの実現が求められることに加え、教育における生成 AI の光と影を見極めつつ、その具体的な活用方法について検討を深めます。 もう一つのテーマは、大学と社会の関係を改めて問い直すことです。地方の大学は 18 歳人口の減少に加え、若者の大都市圏への流出という課題に直面しています。地元の高校生を受け入れて自治体や企業と連携して育て、地域の担い手として輩出するハブ(hub)としての役割を、大学はいかにして担うことができるのでしょうか。また、不確実な変化の時代に真摯に向き合う大学は、これまでとは異なる、新たなリベラルアーツ教育の構築に力を注いでいます。 こうした「高大社連携」の取り組みや「新たなリベラルアーツ教育」の模索は、今日の変貌する大学像を象徴するとともに、生成 AI を活用するアクティブ・ラーニング型授業が実践される文脈を形作っています。 大学セミナーハウスでは、教員間の交流を促進し、日本の大学教育の質向上に寄与することを目的としています。本セミナーでは、関連するオンデマンド講義やオンラインセミナー、1 泊 2 日の対面合宿を組み合わせ、教員同士がともに学び、成長できる場を用意いたしました。
運営委員・講師	<運営委員兼講師> 菊地滋夫 明星大学人文学部教授(委員長) 諏訪茂樹 東京女子医科大学統合教育学修センター准教授 福山佑樹 関西学院大学ライティングセンター教授 藤井恒人 東京農工大学グローバル教育院教授 田原真人 IAF JAPAN 理事、参加型社会学会理事、デジタルファシリテーター <講師> 佐藤順子 SPA ファシリテーター 澁川幸加 中央大学文学部特任助教/教育力研究開発機構研究員 杉森公一 北陸大学高等教育推進センター長・教授 丸山実子 島根大学人材育成・キャリアデザイン部門長・准教授 村山光子 明星大学非常勤講師、明星中学校・高等学校事務長
定 員	30 名
参加者	23 名(14 大学) ものづくり大学(2 名)、沖縄県立看護大学(2 名)、大阪物療大学(2 名)、京都橘大学(1 名)、国士舘大学(2 名)、駒澤大学(1 名)、静岡産業大学(1 名)、駿河台大学(5 名)、創価大学(1 名)、千葉商科大学(1 名)、福岡工業大学(1 名)、防衛大学校(2 名)、前橋工科大学(1 名)、明星大学(1 名)
アンケート結果	(回答 20 名) ※ 満足17名 どちらかというと満足 2 名 不満である 1 名 今回の大学教員研修セミナーを総合評価してください。 20 件の回答 ● 満足している ● どちらかというと、満足している ● どちらかというと、不満である ● 不満である ● わからない

事業名	第46回大学職員セミナー(オンラインセミナー)
期 日	2025 年 10 月 17 日(金)～18 日(土) 1 泊 2 日
主 題	2050 年の大学と大学職員像を展望する ～『大学職員のリアル』著者と描く、あなたのキャリアのつくり方～
対 象	主に大学職員
趣 旨	18 歳人口の減少という厳しい状況が続く中、大学で働く私たちには地域との共生、大学間連携、リカレント教育等様々な問題への対応が求められています。一方、AIを始めとする技術革新は、私たちの働き方を変えていくことになるのは間違いありません。このような先行きが見通せない中、私たちは大学人としてこれからをどう捉え、大学を支えていくためにどのようなスキルを身につけていくべきか、不安を感じている方も多いと思います。残念ですが、明確な解答、ビジョン持つことは困難な状況です。しかし、これからの自身の働き方を、様々な観点から主体的に考えることは大切な一歩となります。 今回は「大学職員のリアル」の著者である倉部史記様を講師としてお迎えし、参加者の皆様と講義・ワークを通して、少しでもそのヒントとなるものを考えていくことができればと思いますセミナーを開催することとしました。
企画委員・講師	<企画委員> 神山正之 立教大学入学センター<委員長> 青木加奈子 共愛学園前橋国際大学短期大学部事務局 加藤毅 筑波大学大学研究センター准教授 黒田絵里香 慶應義塾塾監局総務部課長・協生環境推進室事務長 田中一平 法政大学学務部次長 渡邊正樹 中央大学学事部企画課課長 <基調講演講師>倉部 史記(追手門大学客員教授・元大学職員)
定 員	35 名
参加者	13 名(10 大学) 東洋大学(2)、東京大学(1)、関西国際大学(3)、京都女子大学(1)、立教大学(1)、長野県立大学(1)、桐蔭横浜大学(1)、日本工業大学(1)、名城大学(1)、筑紫女学園大学(1)
アンケート結果	(回答 11 名) ※満足 9 名 どちらかというと満足 2 名 今回の「第 46 回大学職員セミナー」を総合評価してください。 11 件の回答 ● 満足している ● どちらかというと、満足している ● どちらかというと、不満である ● 不満である ● わからない

事業名	古田武彦記念古代史セミナー2025(ハイブリッドセミナー)
期 日	2025 年 11 月 8 日(土)～11 月 9 日(日)
主 題	1. 古田武彦記念古代史セミナー2025 卑弥呼はどこにいたか
対 象	古代史に関心のある方ならどなたでも
趣 旨	今年も論理的、科学的、客観的に史実に迫ろう 「古田武彦記念古代史セミナー」は、今回が8回目になります。近年のテーマは、卑弥呼の時代(3世紀)、倭の五王の時代(5世紀)、「日出づる処の天子」の時代(7世紀)と続き、前回と前々回は「倭国から日本国へ」をテーマにしました。今回は、3世紀に戻り、テーマを「卑弥呼はどこにいたか」に絞りました。 古代史学においては史実の解明が基本であり、そのための作業即ち証明は論理的、科学的、従って客観的であり、当然のことながら evidence-based でなければなりません。史実には When、Where、Who、What、Why、How などの要素が含まれますが、今回のテーマは Where を解明しようというものです。Where は客観的情報であり、論理的、科学的かつ十分な説得力を持つ証明が求められます。 古代史学は、先ず客観的に史実を確定し、それを各自の歴史観に基づいて解釈したり評価したりすべきです。屢々歴史観が史実に先行する議論が行なわれているのは何としたことでしょうか。当然のことながら、議論の前提は客観的でなければなりません。客観性のない前提から出発する議論には、その前提を認める者しか関心を示さないからです。客観性のある前提から出発して、論理的、科学的で誰もが理解出来る議論の結果として史実に迫ることが期待されます。 今回のテーマは非常に長い議論の歴史があるにも拘わらず、いまだに史実に到達していません。この議論は専ら『三国志』魏志倭人伝を拠り所にして展開されてきましたが、客観性のない読み方や論理的でない解釈までもが百出して今日に至っているといえます。一つの文献だけに依拠しようとすると往々にして起きることです。魏志倭人伝とは独立な情報(例えば風土記、伝承など)があれば良いのですが…。勿論、もう一つの極めて重要な情報源が考古学的成果であることはいままでもありません。 今回のセミナーは、古代史学と考古学に関する 4 つの講演とパネルディスカッションを中心に構成します。古代史学と考古学の有機的な融合により、卑弥呼のいた場所に少しでも近付きたいと期待しています。研究者のみならず、古代史に関心を持つ全ての人を歓迎します。若い人々にとって真実の古代を覗く窓になれば幸いです。 このセミナーは、大学セミナーハウスと多元的古代研究会、東海古代研究会、東京古田会及び古田史学の会が共同で開催します。
実行委員・講師	<実行委員> 荻上紘一(委員長)、大越邦生、大墨伸明、橘高修、谷川清隆、西坂久和、畑田寿一、富川ケイ子、宮澤健二、和田昌美 <講演講師> ①仁藤敦史(国立歴史民俗博物館名誉教授) ②久住猛雄(福岡市教育委員会・市役所に文化財専門職として入庁・在職) ③関川尚功(元橿原考古学研究所)
定 員	60 名
参加者	61 名(社会人:会場 37 名 オンライン 24 名)
アンケート結果	(回答 26 名) ※満足 10 名 どちらかというと満足 9 名 どちらかというと不満 6 名 不満である 1 名 今回の「古田武彦記念古代史セミナー2025」を総合評価してください。 26 件の回答  ● 満足している ● どちらかというと、満足している ● どちらかというと、不満である ● 不満である ● わからない

事業名	憲法を学問するIX
期 日	2025 年 11 月 22 日(土)～11 月 23 日(日)
主 題	司法の消極性と積極性 ～違憲審査の Legitimacy～
対 象	大学生(大学院生を含む)及び社会人
趣 旨	「憲法を学問するⅡ」以来、久方ぶりに、「判例」をテーマに採り上げるようになった。当時、4人の講師がそれぞれの判例解釈方法論の違いについて討論するパネル・ディスカッションを、フロアで聴いていた樋口陽一教授が思わず立ち上がって、「いま、歴史に残るような議論が行われているんですよ、皆さん！」と発言されたことは、記憶に新しい。「歴史的な議論」とは過褒の言であるが、合宿セミナーならではの率直な議論の応酬は、講師それぞれにとって学ぶところ多く、心地の良い体験であった。アンケートをみる限りでは、参加者のみなさんにとっても、知的興奮をよぶ時間になったようである。 さて、今回の趣向は、「裁判官」である。前回の二番煎じにならぬよう、講師の間で討論をした結果、おのずから主題として浮かび上がってきた。戦後日本では、違憲審査制を採用しながらも、裁判官が民主的正統性を欠くために消極的な姿勢が目立ち、「顔のない裁判所」と呼ばれてきた。しかし、「トランプのアメリカ」にみられるように、混迷がめだつ海外の裁判所を尻目に、日本の裁判所は近年、着実に成果を挙げ始めているようにみえる。世界の立憲主義における「周回遅れのフロント・ランナー」になる日も近いのかもしれない。 かつて日本の最高裁を憲法判断積極主義かつ違憲判断消極主義と評した名著『司法の積極性と消極性』の著者も、現在では、「職業裁判官を担い手とする下級審の判断をきっかけとして憲法の意味が示されるという名誉ある実験」に注目している。その際、成功の軌跡を仔細に検討すると、当該事件が係属した小法廷には、必ず注目すべき裁判官がいて重要な役割を果たしていることがわかる。今回の「憲法を学問するIX」では、講師がおのおの注目する「裁判官」を具体的に念頭におきつつ、各々の主題を設定した。誰が念頭におかれているかは、フタを開けてみてのお楽しみ、というところである。
企画委員・講師	<企画委員兼講師> 石川健治 東京大学法学部教授(委員長) 蟻川恒正 日本大学大学院法務研究科教授 穴戸常寿 東京大学法学部教授 木村草太 東京都立大学法学系教授 <特別講義講師> 樋口陽一 東京大学・東北大学名誉教授
定 員	50 名
参加者	学生 20 名(5 大学)、社会人 23 名 計 43 名 ※20 名(5 大学): 東京大学(含む大学院)10 名、早稲田大学(含む大学院)4 名、東京都立大学(含む大学院)2 名、東北学院大学 3 名、法政大学大学院 1 名
アンケート結果	(回答 25 名) ※ 満足 24 名 どちらかというと満足 1 名 今回の「憲法を学問するIX」を総合評価してください。 25 件の回答  ● 満足している ● どちらかというと満足 ● どちらかというと、不満である ● 不満である ● わからない

事業名	第13回 EU セミナー
期 日	2025 年 10 月 10 日(金)～10 月 12 日(日) 2 泊 3 日
主 題	不確実化する世界における EU の真価
対 象	大学生(大学院生、留学生を含む)、高校生、社会人
趣 旨	トランプ第二次政権が開始されてから世界は混乱を極めている。「アメリカファースト」という単独行動で果たして同政権が目標とする「MAGA(偉大なアメリカの再生)」は実現するのか。「偉大さ」には信用や信頼が不可欠だ。「ディール」による合意はそうした暗黙の前提を揺るがすことになるのではないか。 当初より EU は「準備はできている」と再三言明してきた。それは、トランプ高関税政策に対抗して、カナダ、メキシコ、中国、インドなどを含む諸国とのグローバルな多国間協力アプローチという EU の姿勢に明確だ。他方でウクライナ戦争への対応の文脈で、関連産業部門の発展と協力を前提にした共通防衛政策、「再軍備」の意志も明らかにしている。 トランプ政権誕生によって不確実性を増した世界で、EU は今後どのようなかじ取りを迫られるのか。皆さんと一緒に考えてみたい。
企画委員・講師	<企画委員兼講師> 太田瑞希子 日本大学経済学部准教授 小久保康之 東洋英和女学院大学国際社会学部教授 昔農英明 明治大学文学部准教授 田中素香 中央大学経済研究所客員研究員・東北大学名誉教授 中西優美子 一橋大学大学院法学研究科教授 蓮見雄 立教大学経済学部教授 細井優子 拓殖大学政経学部教授 渡邊啓貴 帝京大学法学部教授・東京外国語大学名誉教授<委員長> <特別講演講師> 駐日欧州連合(EU)公使/副代表 トーマス・ニョッキ氏
定 員	60 名
参加者	44 名(6 大学) 社会人 3 名 合計 47 名 ※44 名(6 大学): 立教大学(20 名)、東海大学(11 名)、日本大学(7 名)、東洋英和女学院大学(3 名)、拓殖大学(2 名)、帝京大学(1 名)
アンケート結果	(回答 21 名) ※満足 15 名 どちらかと言うと満足 4 名 どちらかと言うと不満 1 名 わからない 1 名 今回の「第13回 EU セミナー」を総合評価してください。 21 件の回答  ● 満足している ● どちらかと言うと、満足している ● どちらかと言うと、不満である ● 不満である ● わからない

事業名	世界の中の中国と日本—現代中国理解Ⅶ
期 日	2026 年 1 月 10 日(土)～11 日(日) 1 泊 2 日
主 題	ポスト習近平時代を見据えて—転換期にある中国の現在と未来—
対 象	大学生(大学院生、留学生を含む)、高校生、社会人
趣 旨	現在、中国は大きな転換を迎えようとしています。それは政治外交、経済、社会など包括的なもの だと言えるでしょう。2025 年、中国が転換期にあることが多くの場で示されました。米中関係はそれを加速させている、とも言えます。 それでは、どのような転換が生じているのでしょうか。第一に経済成長率が鈍化し、製造業中心の経済から高い技術に裏打ちされた効率的な経済へと転換が図られようとしています。第二に人口減少、高齢化などを背景に社会構造が変化し、地方財政、社会保障制度など課題が山積しています。第三に、アメリカとの「競争」姿勢を内外に明確したこともあり、核兵器も含めた軍拡が一層加速し、軍事面での予算が増加しています。台湾統一という目標についても時間の経過の中で実現に近づいていることを示すことが求められています。第四に、国内政治の面では、2027 年に始まる政権第4期を視野に、政権移行が視野に入ってきました。その前哨戦が国防・外交関連の人事でしょう。 これらの転換が何を意味するのか。政治、経済、社会、国際関係から掘り下げていこうとするのがこのセミナーです。
企画委員・講師	<企画委員兼講師> 川島真 東京大学大学院総合文化研究科教授<委員長> 小嶋華津子 慶應義塾大学法学部教授 金野純 学習院女子大学国際文化交流学部教授 内藤二郎 大東文化大学経済学部教授
定 員	35 名
参加者	23 名(8 大学) 高校生 1 名 社会人 3 名 合計 27 名 ※23 名(8 大学):学習院女子大学(11 名)、慶応義塾大学(4 名)、大東文化大学(2 名)、上智大学(1 名)、東海大学(1 名)、東京大学(2 名)、法政大学大学院(1 名)、早稲田大学(1 名) ※高校生 1 名:角川ドワンゴ学園 N 高等学校
アンケート結果	(回答 15 名) ※満足 12 名 どちらかと言うと満足 3 名 今回の「現代中国理解Ⅶ」を総合評価してください。 15 件の回答  ● 満足している ● どちらかというと、満足している ● どちらかというと、不満である ● 不満である ● わからない

1 .2025年3月31日現在入居状況

学校名	所属			計	性別	
	大学院生	学部生	教授		男性	女性
東京都立大学		7		7	7	0
東京工科大学		2		2	2	
大東文化大学						0
合計		9		9	9	0

2. 国別留学生数

国名	計	大学院生	学部生	教授
フランス	2		2	
中国	2		2	
フィリピン	0		0	
ベトナム	1		1	
スリランカ	1		1	
インドネシア	1		1	
インド	1		1	
ネパール	1		1	
バングラディッシュ	0		0	
イタリア	0		0	
合計	9		9	